

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	33・1	学 校 名	清水南高等学校・同中等部	校 長 名	小野田 秀生
------	------	-------	--------------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	新学習指導要領に基づいた授業改善を進め、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%	中等部 90.6% 高 校 76.0% 全 体 83.3%	A	成果目標は達成されたが、学習内容がどれくらい定着し、活用されているかを把握することが今後の課題と考える。
		授業公開週間実施回数：年間3回 外部講師による講演満足度：80%	ちょっと見週間1回、 （5月）ちゃんと見週間 （6月、10月）2回、 計3回実施 I C Tに関する研修会の満足度 97.2% 評価に関する研修会の満足度 100%	A	アンケートでは好意的な回答が多く見られた。授業公開週間後の教科会議が研修テーマに沿った話し合いになるような仕掛けをしたい。 外部講師ではなく、本校教員が講師となり、夏季研修でI C Tや学習評価に関する研修会を実施したが、大変充実した校内研修であったと言える。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%	中等部 86.7% 高 校 66.8% 全 体 76.8%	B	中等部では毎日学習する習慣が概ねついている。学習の質やマネジメントにも焦点を当てて指導を継続し、学力向上につなげていく。 高校は定期試験前だけではなく、各教科でバランスを取りながら、毎日の宿題を課すことが必要である。
		測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組んだ教員：80%	全 体 58.8% （参考） 校内研修での学びを生かして授業改善に取り組んだ教員 86.3%	B	中等部は学力推移調査について振り返る時間を設定するなど、全体で授業改善に取り組んでいる。 高校は外部模試等の結果を全教員で共有することで、授業改善に取り組む教員を増やす。 中等部および高校1年生に対して、多くの教員がI C T機器を活用した授業を積極的に導入し、授業改善に努めた。
イ	中高6年間を見通したキャリア教育の充実を図る。	「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%	中等部 76.9% 高 校 89.4% 全 体 83.2%	A	中等部は6年間のキャリア教育の計画に基づき、職業調べや職業講話を通して将来への見通しをもてるように支援する。 高校は3年生の受験プランシートの作成がたいへん効果的であった。進路実現に向け、主体的に考えて入試方法を選択して挑戦する生徒が多くなった。
		講演、講義等の回数：年間合計 10回	（中1）4回（中2）3回 （中3）1回 （高1）4回（高2）1回 （高3）5回 上記以外にも各学年進路集会等4回以上実施	A	中等部は南極くらぶ、吉本興業、医療、芸術、大学コンソーシアム等、学年毎に工夫して講演会が開催できた。 高校は就職から難関大学進学と多様な進路目標を持った生徒がいる為、時期や内容等考えながら適切に実施した。

		大学、企業等の訪問回数：年間合計 10 回	(中 1) 0 回(中 2) 0 回 (中 3) 2 回 (高 1) 1 回(高 2) 3 回 (高 3) 1 回	C	コロナ禍でいくつかの計画が未実施になる中、中等部 3 年生は東京大学等を訪問、研修旅行でもコース別研修で京都大学等を訪問した。高校は 1 年生が静岡大学に訪問、2 年生は研修旅行で普通科が北海道大学大学院留学生と交流し、芸術科が日本大学芸術学部を訪れた。 また、静岡県立大学出張講義(5 講座)、静岡文化芸術大学、東北大学出張講義等を実施し、回数は少ないが生徒の進路選択に有意義な機会となった。
ウ	自己有用感を高めるとともに、教育相談体制を充実させ、心身ともに健康な生徒を育成する。	「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：80%	中等部 70.1% 高 校 65.4% 全 体 67.8%	C	中高共に肯定的に答える生徒が増え、昨年度より高校で 8.6%、中等部で 6.8%上昇した。中高 1 年生で「2 分カウンセリング」および「人間関係づくりプログラム」を実施し、その効果を実感したため、来年度も継続し、生徒が集団の中で自己有用感をさらに高めるよう指導を工夫する。
		「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%	中等部 86.0% 高 校 74.9% 全 体 80.5%	A	高校は昨年度より 4.2%上昇した。中等部では生徒会を中心に、高校では各委員会の取り組みとして「あいさつ運動」を行い、成果を得られた。普段からすれ違うときに挨拶できる生徒を増やしたい。
		教員参加による交通安全街頭指導の実施：年間 10 回	月 1 回の朝の街頭指導、定期試験時の下校指導、自転車マナー向上キャンペーン年 3 回	A	定期テストや部活動無しの日の下校指導は成果を得られた。集団で下校する時間帯もあるので、交通安全の呼びかけを行い、活動の様子を地域の方に見ていただくことも考えたい。
		長期欠席生徒(年間欠席 30 日以上)及び転退学者：0 人	(長期欠席生徒数) 中等部 31 名 高 校 6 名 (転退学者) 高 校 5 名 ※ 1 月末現在	B	目標に達していないが、転退学者の数は大幅に減少した。学年担当の教員が早期に関係職員や保護者、SSW、SC と連携して対応し、登校できるようになった生徒が増えた。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%	中等部 82.3% 高 校 79.4% 全 体 80.9%	A	高校は昨年度から 10.7%上昇した。SC や SSW、養護教諭や教育相談担当の丁寧な関わりによる成果だと言える。今年度は SC、SSW が週 3 日来校し、支援できる体制が整った。
		「保健だより」の発行：年間 12 回	夏休みの 8 月を除いて毎月発行、7 月に 2 回発行したため、年間 12 回発行予定	A	保健委員は生徒の健康保持のために内容を考えて作成している。10 月の「保健だより」は「ニキビに関するほけんだよりコンテスト」に応募した。
		部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上	中等部 89.1% 高 校 73.8% 全 体 81.5%	A	部活動の再編成や中高連携が進んだ年であった。変化が良い方向に向いているのではないかと感じる。その一方で多様な生徒の部活動の在り方について検討する。

エ	学校行事、部活動等の充実を図るとともに、アカデミック・ハイスクールの取組を推進し、豊かな感性や表現力を育てる。	全校読書会の生徒充実度：70% 図書館貸出数：4000冊以上	全校読書会の生徒充実度 94.5% 図書館の貸出数 4,252冊 ※1月末現在	A	全校読書会については、生徒の充実度は高いものの、行事の存続について、教員からは否定的な意見がある。課内で十分協議して、今後の在り方を検討したい。図書館運営は様々な工夫をした結果、昨年度よりも良い状態になった。来館者、貸出数共に増加している。学校図書館について校内での理解を高め、益々の改善を目指したい。
		「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：70%	中等部 87.9% 高 校 75.2% 全 体 81.6%	A	中高共に目標を達成した。教員と生徒の関係性が良いことも、達成要因の一つといえる。
		研修旅行で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上	中等部 97.2% 高 校 94.3% 全 体 95.8%	A	中等部は実行委員だけでなく、一人一人が判断して行動し、仲間と協力して臨機応変に班別研修を進めることができた。高校は国内旅行にはなったが、普通科は国際交流活動も行うことができた。芸術科は大学で最新の施設を見学し、貴重な経験となった。
		「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%	中等部 79.8% （1年 84.6%） （2年 74.5%） （3年 80.0%） ※中等部「表現」の授業についての評価	B	2年生は初めて取り組んだ演劇で単独での演技に恥ずかしさが残り、他を意識した協調性や表現力等にまで意識が向かなかった。身に付けたい力を再考し、SPACとの連携を含めた3年間の計画を見直したい。
		芸術鑑賞、校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計10回	芸術鑑賞（オペラ観劇）2回、校内演奏会10回、公開レッスン（音楽の花束事業/高大連携事業）3回実施	A	今年度、新たな試みとして重奏・重唱の校内演奏会を2回実施。次年度以降も継続し、来年度は校内外の演奏計20回を目標とする。高大連携も積極的に企画する。
		美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計10回	美術鑑賞（アートセミナー）1回、特別実技講習会9回、大学模擬授業1回、夏季特別実技講習会1回実施	A	3年ぶりにアートセミナー（美術館展覧会鑑賞）を3学年で実施することができた。今年度、新たな試みとして卒業生に講師を依頼し、夏季特別実技講習を実施した。
オ	郷土文化への理解を深めるとともに、地域社会や産学官の連携を推進する。	奉仕活動・社会貢献活動経験生徒：60%以上	中等部 36.8% 高 校 29.0% 全 体 32.9% （校内活動） 特別養護老人ホーム「羽衣の園」訪問、三保松原環境保全活動、ウクライナ難民への募金、難民の子供たちへ服を送る活動（ユニクロとの共同プロジェクト） など	C	ボランティアの募集をしたり、夏休みにボランティア活動調査をしたが、成果があらなかった。今後も委員会から情報を発信するなどして生徒の参加機会を増やし、意識の向上に努める。校内では委員会や部活動を中心にボランティア活動を行った。中高福祉委員会生徒と芸術科音楽専攻生による特別養護老人ホーム訪問のほか、三保松原での松葉かき清掃活動は生徒会が中心となって参加を呼びかけて実施した。

		海外交流行事実施：1回以上	高校2年生普通科留学生との交流プログラム実施	A	コロナ禍で十分に実施できない状況が続いているが、高校2年生が研修旅行で北海道大学大学院の留学生と英語でコミュニケーションを取り、交流することができた。
		実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率：中等部75%、 高校45%	防災訓練（4月、2月） 防災講話（8月） 計3回実施 地域防災訓練参加率 中等部 38.3% 高校 23.6% 全体 31.0%	C	校内の実践的防災訓練は、当初の計画通り実施できたが、地域防災訓練の参加率は、コロナ禍ということもあり、地域防災訓練自体が実施されない地区も多くあったため、平常での参加率を前提とした目標には届かなかった。
		土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件	土曜オープンスクール参加者数 年間1,544人 ホームページのアクセス数10,155,507件 (4/12～1/31)	A	今年度は12月にオープンスクールを新たに設定し、全4回実施した。オープンスクールの参加者数は、おおむね目標人数を達成することができた。 ホームページのアクセス数は、目標の2倍超えを達成することができた。
		平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底	平常清掃、大掃除およびオープンスクール前清掃等、計画どおりに実施	A	美化委員の常時活動を中心に生徒が協力して掃除を行うことができた。
力	環境美化、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。	予算執行等に関する校内研修会の開催：年1回	5月の職員会議にて実施	A	適正な会計処理が行われた。 現金の保管、学校徴収金の取扱いなどを説明。適切な会計処理について昨年度よりも職員の意識が高まった。
		講話や研修等の取組：月1回以上	職員会議や朝の打ち合わせ、掲示板を活用して実施した。	A	県からの文書や通信を活用して、注意喚起を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。
		夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月平均45時間以上の教職員数を前年度より減少させる	夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月45時間以上：33.7%	B	夏季休暇は100%取得を達成した。時間外勤務は昨年度(31.8%)より若干多い結果であった。各自で週1日定時退勤日を設けるようにしたが、遅くまで残っている教員が常態化している現状があり、今後も繰り返し声かけを行う。
		職員会議における報告の簡潔化と審議の効率化による勤務時間内での会議の終了	掲示板の活用を呼びかけ、議題を精選することで職員会議は予定時間内に終了することができた。	A	11月より職員会議資料のペーパーレス化を開始した。資料印刷等の労力・時間削減に大変効果があった。しかし、内容によっては紙資料が望ましい場合があり、確認して準備する。